

東京都立北特別支援学校中学部への博物館出前講座 実施要領

1. 受講生徒 : 自立活動を主とする教育課程 中学部の9人 (A4グループ)
2. 実施日時 -2時間完結- :
 2018年12月7日(金曜)、13時20分～14時10分(50分間)
 2018年12月13日(木曜)、13時20分～14時10分(50分間)
3. 講座のテーマ : 土のなかからでてきたよーむかしの道具の土器、そして博物館ー
4. 講座のねらいと展開 (生活単元学習に位置づけて)

【1時間目】

(1) 講座のねらい

- a, 実物の土器をさわってにおいをかぎ、観察を楽しむことができる。
- b, 土器を生活道具としてイメージすることができる。
- c, 土器が展示されている博物館という存在を、意識することができる。

(2) 講座の展開 (50分)

配時	生徒の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入① 5分	授業の準備と始まりの挨拶 ・講座スタッフと挨拶する。	・講座スタッフの自己紹介の後、全員で挨拶して始まりを意識させる。 *担任教諭が授業の開始を伝え、スタッフと生徒が「こんにちは」と言葉をかけあう。	・特別講座を受ける気持ちに切り替えることができる。
導入② 10分	本時の目的と昔のイメージ ・本時の流れと目標を確認する。 1. はじめの、あいさつ 2. “どき” ってなに? 3. “どき” にさわろう 4. “はくぶつかん”をおぼえよう 5. おわりの、あいさつ ・むかしをイメージする。	・流れと目標をホワイトボードに記して、見通しがもてるようにする。 ・スタッフが古代人の服装で寸劇を行い、今とは違う生活空間ということが意識できるようにする。 *どこでもドアでタイムスリップして、古代人(古代服を着た学生)のいる世界に行く。タイムスリップの時は一瞬消灯して、空間の変化を感じさせる。 ・イラストを使って、むかしの生活の様子を意識できるようにする。 *狩りや農作業、竪穴住居での暮らしの様子のイラストを、パワーポイントで提示する。	・講座の目的に気付くことができる。 ・寸劇に反応して楽しむことができる。 ・イラストを見て、大昔の人たちの生活の様子を知ることができる。

<p>展開① 10分</p>	<p>土の中から土器が見つかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土器などむかしの生活道具が土の中から見つかることに気付く。 ・土器を発掘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器の発掘の場면을教室内で再現し、関心をもてるようにする。 *土の入った広口バケツに古代人Aが壊れた土器片を捨て、それがやがて埋まり、現代の研究者が、竹べらで土を掘って土器を見つける。 ・土を少しずつ削りながら掘り下げ、発見の喜びをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器が発掘される様子に、興味をもつことができる。 ・土の中から土器を見つけることができる。
<p>展開② 10分</p>	<p>土器の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代の坏形土器をさわって、においをかいで観察する。 ・土器が何に使われたのかを想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器を壊さない扱い方を寸劇で伝え、意識をもてるようにする。 *土器を乱暴に扱う古代人Bに×のカードを、丁寧に扱う古代人Cに○のカードを、古代人Dがそれぞれ提示する。 ・触察は講座スタッフと先生方がチームティーチングでサポートしながら、楽しく進める。 ・土器が何に使われたのか、イラストカードを使ったQ&Aで、各生徒が意見を行動で示せるようにする。 *土器の用途について、食器、太鼓、帽子の三つのイラストカードを用意し、各生徒はカードにさわって答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器をやさしく扱うことができる。 ・触察の感想などを講座スタッフや先生に伝えることができる。 ・Q&Aで自分の意思を行動で示すことができる。
<p>展開③ 10分</p>	<p>土器が見られる博物館を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の世界から現実の世界に考えを切り替える。 ・昔の土器を見ることができる博物館について、意識をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが古代服を脱ぎ、話題が昔から今に変わったことを伝える。 *タイムスリップは消灯で表現する。 ・iPadによる博物館体験教材を各生徒が操作して、博物館の様子を探る。操作できない生徒はスタッフがサポートする。 *明治大学博物館と和洋女子大学文化資料館のバーチャル体験を楽しめるように、生徒を励まして気持ちを盛り上げるように進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いかけに反応することができる。 ・iPadで博物館の様子を見て、関心をもつことができる。
<p>まとめ 5分</p>	<p>学習を思い出に残す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習に取り組んだしるしに、土器をデザインした缶バッジを受け取る。 ・お礼と終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒に缶バッジを渡し、学習が楽しい思い出になるようにする。 ・全員で「ありがとうございました」と挨拶し授業の終了を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・缶バッジを受け取ることができる。 ・スタッフにお礼を伝えることができる。

(3) 使用教具・機器

- 土師器坏形土器（奈良・平安時代）、現代の陶器茶碗
- 広口バケツ、土、発掘用竹べら、タオル
- パワーポイント用PC、プロジェクター、スクリーン、Q&Aカード

【2時間目】

(1) 講座のねらい

- a, 実物の縄文土器をさわって、模様を観察することができる。
- b, 貝殻や竹管を使い、縄文土器のように粘土に模様をつけることができる。
- c, 土器が展示されている博物館という存在を、意識することができる。

(2) 講座の展開 (50分)

配時	生徒の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入① 5分	授業の準備と始まりの挨拶 ・講座スタッフと挨拶する。	・挨拶をして始まりを意識させる。 *小林教諭が授業の開始を伝え、スタッフと生徒が「こんにちは」と言葉をかけあう。	・気持ちを切り替えて、話を聴く体勢をとることができる。
導入② 5分	本時の目的と昔のイメージ ・本時の流れと目標を確認する。 1. はじめの、あいさつ 2. “どき” のもようを、みてさわろう 3. もようをつけよう 4. “はくぶつかん” をおぼえよう 5. おわりの、あいさつ ・むかしをイメージし、前回に続く講座であることを確認する	・流れと目標をホワイトボードに記して、見通しがもてるようにする。 ・スタッフが古代の服で寸劇を行い、前回の続きの講座で、題材が今とは違うことを意識できるようにする。 *前時間と同様に、駒見と新井がどこでもドアでタイムスリップして、縄文人（古代服を着た学生）のいる世界に行く。タイムスリップの時は消灯して、空間の変化を感じさせる。	・講座の目的に気付くことができる。 ・寸劇に反応し、楽しむことができる。 ・前回の学習内容を思い出すことができる。
展開① 5分	土器の観察 ・縄文土器をさわって、模様を観察する。	・土器を壊さない扱い方を寸劇で示し、意識をもてるようにする。 *土器を乱暴に扱う古代人Aに×のカードを、丁寧に扱う古代人Bに○のカードを、古代人CとDがそれぞれ提示する。	・土器をやさしく扱うことができる。
展開② 20分	粘土に模様をつける ・縄文土器を飾る模様の装飾方法を見る。	・実際に貝殻と竹管を使って模様を付け、やり方がわかるようにする。 *土器は博物館に展示されていることを意識できるようにし	・集中して説明を聴くことができる。 ・縄文土器は博物館で展示されていると気

	<ul style="list-style-type: none"> ・貝殻と竹管を使い、縄文土器と同様の模様をテラコッタ粘土板に付け、装飾する。 	<p>ながら、パワーポイントで縄文土器の模様を示し、古代人A～Eが貝殻と竹管で模様を粘土に描いてみせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模様付けは講座スタッフと先生方がチームティーチングで行い、生徒に言葉掛けをして楽しく進める。 ・モノの装飾が、楽しい気持ちになることを意識できるようにする。 	<p>付くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝殻や竹管が、使い方により多様な模様を作り出すことに気付き、実践できる。
展開③ 5分	<p>博物館の存在を再認識する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の世界から現実の世界に考えを切り替える。 ・昔の土器を見ることができる博物館について、再度、意識がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが古代服を脱ぎ、話題が昔から今に変わったことを伝える。 *タイムスリップは消灯で表現する。 ・土器はどこで見られるか、イラストカードを使ったQ&Aで、各生徒が意見を行動で示せるようにする。 *土器の展示場所について、博物館、図書館、映画館の三つのイラストカードを用意し、各生徒はカードにさわって答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Q&Aで自分の意思を行動で示すことができる。
まとめ 10分	<p>各生徒の装飾作品を鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模様を付けた作品を相互に鑑賞する。 ・お礼と終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の作品を肯定的にコメントして、成功体験となるようにする。 *各生徒の作品を全員に示し、教員が一点ずつ良いところを褒め、全員が拍手する。 ・全員で「ありがとうございました」と挨拶し授業の終了を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の作品に、関心をもつことができる。 ・スタッフにお礼を伝えることができる。

(3) 使用教具・機器

- 縄文土器、貝殻、竹管
- テラコッタ粘土、粘土板
- パワーポイント用PC、プロジェクター、スクリーン、Q&Aカード